

議員研修 報告書

平成 29 年 11 月 7 日

白石市議会議長 志 村 新一郎 殿

議員氏名 大町 榮信

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	平成 29 年 10 月 23 日 (月) ～ 10 月 24 日 (火)
研修先	市町村職員中央研修所 (市町村アカデミー)
研修事項	平成 29 年度 市町村議会議員 特別セミナー ～地域防災力の強化に向けて～
対応者・講師等	<p>①講演 「巨大災害を知り、この美しい日本列島に生きる」 講師 名古屋大学大学院環境研究科 地震火山研究センター 教授 山岡耕春 氏</p> <p>②講演 「【想定外】に立ち向かう地域を育てるためには」 講師 東京大学大学院情報学環特任教授 片岡敏孝 氏</p> <p>③講演 「熊本地震から学ぶ初動 その日常とは」 講師 熊本市議会議員 小池洋恵 氏</p> <p>④パネルディスカッション 「議会・議員にできることは何か ～災害から大切なふるさとを守るために～」</p> <p>・コーディネーター 人と防災未来センター主任研究員 中林啓修 氏</p> <p>・パネリスト 熊本市議会議員 小池洋恵 氏 陸前高田市議会議員 伊藤明彦 氏 大分市議会議員 今山裕之 氏 南国市議会議員 高木正平 氏</p>



<p>概要</p> <p>① 背景・目的</p> <p>② 内容・特色</p> <p>③ 主な質疑</p> <p>④ 考察</p> <p>(感想、課題、 政策提言等)</p>	<p>1、「巨大災害を知り、この美しい日本列島に生きる」</p> <p>◎日本列島は変動帯にある。</p> <p>変動帯で起きていること…海底の堆積物の付加=地震</p> <p>マグマによる地殻の成長=火山噴火</p> <p>浸食と堆積作用=風災害</p> <p>◎日本列島に自然災害が多い理由</p> <p>1、①海洋プレートが沈み込んでいる→海溝型地震が起きる</p> <p>②マグマが生産される→火山が噴火する</p> <p>③隆起して山ができる→活断層型地震が起きる</p> <p>2、台風や季節風→雨が降る→豪雨になる→土砂の移動が起き</p> <p>→斜面崩壊・地すべりの発生</p> <p>3、沈降する場所ができる→平地ができる→土石流の発生となる</p> <p>地形を作る作用と災害は表裏一体、過去の災害の跡に住んでいる</p> <p>自然を完全に制御することはできない。</p> <p>自然の仕組みを知り、対応しなければならない</p> <p>「自然現象の予測は難しい」=絶対の安全はない</p> <p>災害は多様で経験だけに頼ってはいけない。</p> <p>同じような地震であっても条件によって被害は異なるものである。</p> <p>2、「想定外」に立ち向かう地域を育てるためには</p> <p>◎想定を超える災害、大地震頻発する豪雨災害、凶暴化する台風</p> <p>平成 29 年 7 月九州北部豪雨…梅雨前線に向かって南から暖かく、</p> <p>湿った空気が流れ込み、九州北部で大雨となったことをはじめ</p> <p>全国各地でも 7 月～9 月にかけて計 100 回もの大雨を記録した。</p> <p>近年各地で豪雨災害が多発しているのは何故か</p> <p>平成 28 年 台風 9 号 10 号 11 号 また 27 年の 9 月 関東 東北</p> <p>など、日本近海の高い海水温が大きく影響していると思われる</p> <p>一度に降る雨の量 増加や台風の巨大化、高い緯度での台風の</p> <p>発生など頻発化する</p> <p>巨大台風襲来…今後において巨大台風の襲来も考えられる。</p> <p>○「現行の行政主導による避難制度の限界」</p> <p>・近年の集中豪雨による災害—避難勧告の発令が困難な事例が多発した、屋外への避難がかえって危険な場合もある</p> <p>・地域単位で一様に発表される災害情報などの限界</p> <p>・豪雨災害時の避難の段階性は身に迫る危険を回避する緊急避難は住民個人の判断が重要である。</p>
---	---

○平成29年7月九州北部豪雨における避難の事例（朝倉市）

記録的な大雨の中、自宅周囲がいつもと違う何かに気づき避難に役立てた人もいた

地区全体に避難の呼びかけを行い、地区全員が避難した。

◎生き抜く力を育む防災協力～釜石市防災教育

「防災教育で育みたい子ども像（その日その時にあって懸命に避難する子どもたち）」

○子どもたちに育みたい、生きる力とは…内発的な行動意向に

基づいて、自ら最善の行動を判断し、主体的にそれを実行する力

○釜石市は津波の常襲地域であり、東日本大震災以前から、

学校津波防災教育は行われていた。

一般的な内容の防災教育：過去に災害を郷土の歴史として学ぶ、

学校行事としての避難訓練などどれも必要な教育内容だが、

この教育だけでは子どもたちに生き抜く力が備わるとは思えない。

「育みの環境で捉える防災教育」

○16mの津波が襲った釜石市鶴住居地区・釜石東中学校の生徒は、

鶴住居小学校の児童の手をとり、そして小さな子どもやお年寄り

を助けながら命を守り抜いた。

災害に備える主体的な姿勢「助けられる立場から助ける立場へ」

その下で取り組んだ教育成果である

「知識の防災教育」から「姿勢の防災教育へ」

三陸沿岸の人々は過去の津波襲来の事実や避難の必要性は知識

としては持っていたが、東日本大震災以前の避難行動は至って低調なものだった。

知識があれば合理的な行動が導けるとは限らない。

市政の防災教育は→内発的な行動意向の醸成をめざした

コミュニケーションである

◎備えることを根付かせるために何が必要か

～これからの地域防災を考える～

○自助、共助（住民）公助（行政）が一体となって自然災害に

立ち向かう社会の構築が必要である

○地域・社会に災害に備える文化を築く

世代間で災いをやり過ごす知恵を継承し、その知恵が災害文化

として定着することが求められる。

3、熊本地震から学ぶ初動その日常とは

○2013年3月11日東日本大震災…沢山の子ども達が生かされ、残されたランドセル、その写真が目に焼き付いた。

津波に襲われた宮古市へ行く

○岩手県宮古市の中学生と先生が熊本に来てくれた。

熊本の中学生のために募金活動をしてくれた。

○その時の自分や両親のように何処かで苦悩している子ども達に夢を、親たちに希望を与え支え合う環境を創りたいと地域活動をやってきたこれが自助、共助、そして初動の重要性であるとおもわれた。

○体験として避難所は全ての人が生活弱者となる…日頃接した事のない人々が学校等の避難所に、地域で交流されている人々は身近な公民館やコミセンに、支え合う機能はしたが身近な福祉的避難所として問題点はたくさんあった。

まず関係機関の足なみがそろわなくてまとまらないことなどが多く福祉の心をもって運営すべきといっても理解できない点があったりした。防災に対する訓練という大きな体験が必要であると考えられる災害や防犯などの自助、共助によりボランティア活動が力となると感じた。

○ここで議員としての役割…行政機関と地域住民との日常における情報拠点としての機能を身につける。

行政と住民間の情報の共有、連携する行動をしていきたい。

4、パネルディスカッション

「議会、議員にできることはなにか」

～災害から大切なふるさとを守るために～

コーディネーター中林氏より

議会、議員は福祉の心、共助、公助、コミュニティをもって行動すべきであると思われるが、パネリストの方に防災、災害など体験されたなかでの意見を聞かせてください。

◎伊藤さん…陸前高田市平成23年24,000人あった人口が東日本大震災により死者、行方不明者1,800人。現在では20,000人をきったとおもわれる。

議員の方市職員の方なども死亡されました。

3月末に臨時会の開催がやっとだった、その後しばらくは議会の開催はできない状態がつづいた。

○東日本大震災の概要

○震災直後の市行政の状況

・震災直後の市議会の状況

・市議会としての東日本大震災の検証等行い議会災害対策

ハンドブックの作成、議会災害対策会議設置要綱、

議会災害対策行動マニュアルの作成

◎小池氏…議会对応、そもそもどうあるべきかわすれてきた気がする

ボランティアとは…改めて何をするのかではなく、福祉、人権とは

行政として何をどうすべきか。ハードの裏にはハートがある。

体験した人でなければ理解できないと思う。

◎今山氏…大分市議会防災会議と議会 BCP（業務継続計画）について

南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、災害時の本会議の

招集、議案審議・採決に関する手順を明文化した。

◎高木氏…南国市は避難所として、防災タワーを 14 基各地域より

600m で行ける場所に設置した（平成 25 年度末までに 14 基完成）

タワーを利用した訓練を各地区公民館で行い、訓練だけではなく

生命を守り生命つなぐ話し合いなど遊び心で利用している。

◎中林氏…本日の議論するポイントとして

・災害下で地方自治・民主主義を守るということ

・地域住民から行政に伝えること。議員は市民と行政のパイプで

あるのはまちがいない。市民が安心して聴ける、しかも行政とも

理解できると思っている（議員は板ばさみの状態かも）

「伝える」…議員としてのフットワークの必要性また、

議員同志のネットワークが大切である。